



# しなやかに、 したたかに

## 教育委員会・女性セミナー

新しい女性の生き方を求めて開かれた女性セミナー。その締めくくりとして、公開講座「しなやかに、したたかに」と題したパネルディスカッションが、11月27日、しろね大鳳と歴史の館で行われました。会場では、3人のパネラーが、私たちが普段気付かなかったさまざまな問題を提起しました。男女のより良い関係とはどんなものなのか、一緒に考えてみませんか。

### 女性問題は 私たちの意識の奥深い部分で 眠っていました

**司会(本望)** 最初に、女性問題について小野さんの考えをお聞かせください。

**小野** 男性優位の社会ができて三百年がたったといわれています。男性は優位、女性は劣った存在という考えが長い間に植え付けられてきた社会では、女性が持つ感覚や理論が十分に生かされていないと思います。そんな中で、女性問題は私たちの意識の奥深い部分で眠っていました。だから、この問題を議論することは非常に難しいと思います。

**司会** 栗田さんは職場での女性問題に取り組んでこられたわけですが、ワーキングウーマンとして、女性問題について、どのようにお考えですか。

**栗田** 男女雇用機会均等法などによって、女性の社会進出は目を見張るものがありました。働く女性は、家事と仕事の両立などたくさん抱えています。男女の役割分担を取ってみても、女性の心の中に「多くの役割を担って当たり前」という意識があるような気がします。

**司会** 女性が社会で働いていくためには、どんなことが必要なのでしょう。

**小野** まず、条件整備が必要だと思います。しかし、ここでも男性・雇用の発想から条件整備が進められているのが現状です。子供は本来、家庭や地域で育てるものなのに、男性側の発想では「会社」に託児所を作れば良い」といったような具合です。やはり、そういった発想はおかしい。また、女性同士が協力し合うことも必要ではないかと思っています。

なやかに、したたかに」男女が、より良い関係をつくっていくためにはどうしたら良いとお考えでしょうか。

**栗田** 男女の良い関係とは、お互いができることを一生懸命やって、補い合い、信頼できる関係を、家庭でも職場でもつくっていくことだと思います。そのためには「女だから仕方ない」という考えは捨て、素直に話をすべきです。そしてお互いの理解を深め、いろんなことをやり遂げていくことが大切だと思います。

**山崎** 豊かで明るい暮らしを目指して頑張っている女性たちがたくさんいます。彼女たちは、小さなことでも一つずつ積み上げて活動しています。そういった活動のためには、お互いに助け合い、情報交換できるグループが大切になってきます。肩ひじ張らず、身近な問題から解決し、積み上げていくことが「しなやかに、したたかに」生きることにつながるのではないのでしょうか。

**小野** ボーダレス社会、高齢化社会を迎えて、心を大事にした社会づくりに、女性が大いに貢献していく時代がきます。自分を知り、相手を知り、お互いの良いところを認めて世の中をつくらせていけたら素晴らしいと思います。若い人たちが、世の中で大いに活躍できる環境をつくっていくことが、私たちに課せられた課題だと思っています。

### 心を大事にした社会づくりに 女性が大いに貢献

**司会** 最後にパネラーの皆さんは「し



**栗田恵子(くりたけいこ)**  
●白根市役所勤務。昨年度の市労働組合組織部長。女性の待遇改善を求めて立ち上がった



**山崎千勢(やまざきちせ)**  
●農業改良普及センターの農村生活を担当。現在、白根班班長として活躍中



**小野麻子(おのつねこ)**  
●紫築山小学校校長。平成5年10月から6年3月までNHKラジオ「朝の随想」を担当



**本望雅子(ほんもうまさこ)**  
●中学校の保健体育教師を経て、平成6年4月から県生涯教育推進課社会教育主事

やがて高齢化社会がやってきます。そのときには、女性も今以上に重要な労働力として社会に出て働き、高齢者を支えていく時代がきます。男性が家事を手伝う割合は何パーセントなどという段階から早く抜け出して、男女が共に社会を支えていくような環境づくりをしなければいけないと思います。

**司会** 農業に携わる女性たちの現状は、どのようなものなのでしょう。

**山崎** 農業を支えている人の約半数が女性です。新潟県でも「さわやか女性ビジョン」と題して農村女性の地位向上のために、さまざまな取り組みを行っています。一般に個人経営の農家の多くを見ると労働報酬は夫婦単位で受け取るというケースが多く、給料制を取っているところはあまりありません。休みも定期的ではなく、経営方針に関しても、女性が単独で参加するということは多くありません。家事や農作業など幾つもの役割をこなしているながら、労働条件はあまり整備されていないのが現状です。また、農業後継者の結婚問題も浮き彫りにされています。白根市が行ったあるアンケートにより、農家へ嫁いでも良いという回答はわずかです。年ごろの娘さんを持つ親、特に母親からは農家へ嫁がせたくないという回答が多く寄せられています。

**司会** 農家の問題は、さまざまなものがありますね。

**小野** 農業に限らず、商工業の零細企業でも、後継者不足・嫁不足に悩まされているようです。私は農村の嫁不足は女性問題が吹き出した結果、現れた問題で